

ほんわ館だより

令和8年5月発行
第164号

中山町立図書館
開館 9:00~19:00
休館日 5/5.11.28.25

予告 5月16日(土)『春の本フェス』が開催されます

『スペシャルおはなし会』『本の世界の料理教室Part10』ワークショップ『くるくるレインボーを作ろう!』など楽しい催し物が盛り沢山!!
詳しい内容は館内ポスター、チラシ、ほんわ館ホームページをご覧ください♪

自分だけのオリジナルくるくるレインボーを作りましょう♪



今月のおはなし会は
5月16日(土)スペシャル
になります♪



5月の 展示コーナー



★児童書コーナー

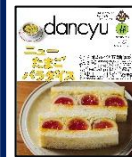
- ・絵本コーナー 『わたしのかぞく』『スクスクそでて』
- ・円形コーナー 『心とからだ』
- ・空中図書コーナー 『へんしん!』
- ・小学生おすすめコーナー 『みんなの学校』

★2階掲示板 『旅に出たくなる本』

★おすすめコーナー
『旅・アウトドア』



新しい雑誌が入りました



『dancyu(ダンチュウ)』
プレジデント社
どうぞご利用ください

新着 最近入った本を紹介します

※ここに紹介した他にも
たくさん入っています

【児童書(えほん)】



◀『くろくんたちの
すてきな おえかき』
なかや みわ//
さく・え
童心社



◀『いるよ...』
有田 奈央//文
Fracoco//絵
新日本出版社



◀『はたらく
洋菓子店』
矢萩 多聞//文
吉田 亮人//
写真
創元社

【郷土のDVD】タイトル	企画・制作	【児童書】書名	編著者名
次世代に伝えるふるさとの伝統食"だし"	ふるさと映像残し隊	じごく小学校(5.6.7)	有田 奈央// 作
【文芸書】書名	編著者名	高校受験-15歳の進路選択-	高原 史朗// 著
DANGER	村山 由佳// 著	つかめ!理科ダマン 11	シンテフン// 作
青天	若林 正恭// 著	青龍中学校オカルト探偵部	神永 学// 著
明日、あたらしい歌をうたう	角田 光代// 著	わかっていないこと図鑑	KANADEL// 編
明鏡(東京湾臨海署安積班)	今野 敏// 著	【教養書】書名	編著者名
星月夜 藩邸差配役日日控	砂原 浩太郎// 著	棺桶まで歩こう	萬田 緑平// 著
すべてが円くなるように	原田 マハ// 著	帰宅後15分しか、かけません!	みき// 著
誓いの証言(佐方真人シリーズ5)	袖月 裕子// 著	地球を救う植物のすごい知恵	中西 友子// 著
ふつうの家族	辻堂 ゆめ// 著	アイデア無限大!畑の虫の防ぎかた	農文協// 編
マリコは国宝を観た!!	林 真理子// 著	60代から夢をかなえるひとり旅	ショコラ// 著
うまれたての星	大島 真寿美// 著	自転車の交通ルールがわかる本	コンテックス情報研究所// 編著
青のナースシューズ	藤岡 陽子// 著	ニュアンスのある大人服	まのあきこ// 著
おしら鬼秘譚	黒木 あるじ// 著	意外と知らない鳥の生活	piro piro piccolo// 著



本の歳時記



—こどもの読書週間、図書館へようこそ—

今年も4月23日から5月12日までの約3週間、「こどもの読書週間」が開催されています。子どもの読書離れが進んでいると言われてはいますが、これは子どもだけではないようです。そのような中、山形県内には蔵書数75万冊を超す大きな図書館から数千冊の図書室まで、35市町村全てに読書のできる環境が整っています。また、図書館が人々の居場所として見直され、まちづくりと一体で整備される傾向にもあるようです。当ほんわ館は、開館以来「みんなの居場所」を標榜してきました。今では、人口一人当たりの本の貸出数が県内で一番多い図書館になっています。今月は、「こどもの読書週間」にちなんで図書館を舞台にした作品を紹介します。



『おさがしの本は』

『おさがしの本は』 (門井慶喜//著 光文社)

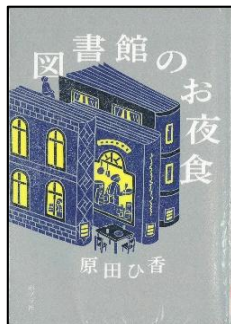
図書館にある沢山の書の中から、目当ての本を探し出すのは大変なことです。そのため、図書館にはレファレンス・カウンターがあります。主人公の和久山隆彦は、レファレンス・カウンターで、様々な本を探して利用者に応えています。しかし、行政や利用者への不満からやる気を失っていました。そんな時、財政難による図書館廃止の噂が…。本にまつわる謎が5編も続く推理ミステリーですが、死人は出ません。あくまでも本や図書館にまつわる謎解きの作品です。



『図書室のキリギリス』

『図書室のキリギリス』 (竹内真//著 双葉社)

バツイチになったのを機に、高校の図書室で学校司書として働き始めた主人公の詩織だが資格を持っていない。それでも、慣れない仕事に一生懸命向き合い、図書委員たちを巻き込んで小さな謎解きをしたり、読書会をしたりと本を読むことの楽しさを校内に広げていき、いつしかやりがいを感じるようになっていきます。なにより、生徒たちとの触れ合いに青春を感じて、あの頃の熱い気持ちがあふれ出てきます。作品の中に実在する色々な本の名前が出てきて、本好きには読みたい本が増えてしまう、そんな一冊です。



『図書館のお夜食』

『図書館のお夜食』 (原田ひ香//著 ポプラ社)

書店の仕事を辞めた樋口乙葉は、東京の郊外にある「夜の図書館」で働くことになります。そこは夕方7時から12時まで開館し、亡くなった作家の蔵書が集められた博物館のような図書館でした。そして、そこで働く人のための賄いがあり、実在する本に登場する料理が提供されます。と言って料理がメインの物語ではありません。そこでは、元図書館員や書店員、古書店員など本に関する職歴を持つ人々が、過去に疲れ傷ついた心を癒すかのように働いていました。乙葉は、予想外の事件に遭遇しながら、ここで働くことの意義について考えていきます。

ほんわ館で読まれています

『科学的に証明されたすごい習慣大百科』

堀田秀吾//著 SBクリエイティブ



勉強も貯金も、ダイエットも目標達成も、習慣化が10割！世界中の心理学、行動経済学、脳科学などの研究をベースに「もっとラクに、もっと自然に、習慣化できる方法」を紹介する。

『兄の終い』

村井理子//著 CCCメディアハウス



憎かった兄が死んだ。残された兄の元妻、娘と息子、私(いもうと)が集まり、兄の人生を終う。怒り、泣き、ちょっと笑ったり。兄の遺品処分に走り回る4日間のコメディエッセイ。

『咲良は上手に説明したい!』

滝沢志郎//著 PHP研究所



横浜駅で、乗客対応に追われるアルバイト駅員の石川咲良の前に一人の女性、浅倉響が現れる。浅倉のわかりやすい説明で乗客が納得する姿に衝撃を受けた咲良は、浅倉と同じテクニカルライターを目指し…

『大河の一滴最終章』

五木寛之//著 幻冬舎



人は何かのために生きるのではない。誰かのために生きるのだ…。衝撃のベストセラー『大河の一滴』から30年。90歳を超えた五木寛之の告白的人間論、最後の集大成。